

日米取引所の取引時間はこう延びてきた〔日本編〕

——現物・デリバティブ別にみる立会時間の変遷（フューチャーズ・トリビューン調べ）

【表 1】日本＝東京証券取引所（現物株）

年月日	立会時間	備考
1950 年 9 月 11 日	前場 9 時～11 時／後場 13 時～14 時（計 3 時間）	戦後再開初期。土曜半日立会あり
1954 年 3 月 3 日	後場を 15 時まで延長（計 4 時間）	終了時刻の延長はここから約 70 年なし
1989 年 2 月 1 日	（立会時間変更なし）	土曜立会（半日立会）を廃止、完全週 5 日制へ
1991 年 4 月 30 日	後場開始を 12 時 30 分に繰り上げ（計 4 時間 30 分）	昼休みを 1 時間 30 分から 1 時間に短縮
2011 年 11 月 21 日	前場を 11 時 30 分まで延長（計 5 時間）	昼休みは 11 時 30 分～12 時 30 分に
2024 年 11 月 5 日	後場を 15 時 30 分まで延長（計 5 時間 30 分）	arrowhead 更改。クロージング・オークション導入

出典：日本取引所グループ「売買立会時間の変遷」ほか。1949 年の取引再開時から土曜は半日立会（1979 年以降、段階的に休場日を拡大）。

【表 2】日本＝デリバティブ・商品（大阪取引所・旧東京工業品取引所）

年月日	内容	夜間の取引時間
1988 年 9 月 3 日	日経 225 先物が大阪証券取引所に上場	（日中のみ）
2007 年 9 月 18 日	大証、イブニング・セッション（夕場）開始	16 時 30 分～19 時
2008～10 年	夕場の終了時刻を段階的に延長	～20 時、～23 時 30 分（※1）
2009 年 5 月 7 日	東京工業品取引所、夜間取引開始（新システム稼働）	17 時～23 時（日中は 9 時～15 時 30 分）
2010 年 9 月 21 日	東工取、夜間立会を大幅延長	17 時～翌 4 時
2011 年 7 月 19 日	大証、ナイト・セッションに改称し延長	16 時 30 分～翌 3 時
2016 年 7 月 19 日	大取、新売買システム稼働に伴い延長	16 時 30 分～翌 5 時 30 分
2020 年 7 月 27 日	旧東商取の貴金属・ゴム・農産物を大阪取引所へ移管	（総合取引所化）
2021 年 9 月 21 日	大取、J-GATE3.0 稼働に伴い延長	17 時～翌 6 時（現行）
2024 年 11 月 5 日	東証の延伸に合わせ日中終了を 15 時 45 分に変更	17 時～翌 6 時

※1...夕場の中間延長（20 時、23 時 30 分）の実施年月日は要確認。出典：日本取引所グループ沿革、大阪取引所公表資料ほか。

日米取引所の取引時間はこう延びてきた〔米国編〕

——現物・デリバティブ別にみる立会時間の変遷（フューチャーズ・トリビュン調べ）

【表 3】米国＝ニューヨーク証券取引所（現物株）

年月日	立会時間（米東部時間）	備考
1871 年	10 時～14～16 時ごろ・月～土	継続取引（ザラバ方式）の開始
1887 年	平日 10 時～15 時／土曜 10 時～正午	この体制が 65 年間続く
1952 年	平日 10 時～15 時 30 分	土曜立会を廃止、週 5 日制へ
1974 年	10 時～16 時	終了を 30 分延長
1985 年 9 月	9 時 30 分～16 時（現行 6 時間 30 分）	開始を 30 分繰り上げ。以後 40 年間不変
1991 年 6 月	16 時～17 時 15 分の時間外取引を開始	当初は機関投資家向け
1990 年代後半～	E C N 経由で個人も時間外取引へ	現在は 4 時～9 時 30 分／16 時～20 時が一般的
2025 年 10 月 14 日	新興取引所 24 X が稼働（4 時～20 時）	夜間特化の取引所として認可
2026 年 12 月 6 日（目標）	日曜 21 時～金曜 20 時の 23 時間・週 5 日へ	月～木は 20 時～21 時に 1 時間停止。S I P・清算は対応済み

出典：NYSE アーカイブに基づく各種資料。ナスダックの通常立会も 1985 年以降 9 時 30 分～16 時。2026 年の 23 時間化はナスダック（4 月）、Cboe EDGX（5 月）が SEC 承認済み、NYSE Arca・24 X も同日開始を目指す。

【表 4】米国＝デリバティブ・商品（CME グループ）

年月日	内容	取引時間（米東部時間）
1992 年 6 月	CME、電子取引システム「Globex」稼働	立会終了後の夜間取引が可能に
1993 年	NYMEX、夜間電子取引「ACCESS」開始	エネルギー・貴金属の夜間取引
2006～08 年	NYMEX・COMEX 商品が Globex へ移行	18 時～翌 17 時のほぼ 23 時間・週 5 日（現行）
2026 年 5 月 29 日	CME、暗号資産先物・オプションを 24 時間・週 7 日化	週末に保守時間あり
2026 年 7 月 24 日	CME、小口の 1 オンス金先物で週末取引開始	指標の 100 オンス金は対象外
（係争中）	小口の 10 バレルWTI は自己認証も CFTC が差し止め	意見募集期限は 8 月 26 日

出典：CME グループ公表資料ほか。CME の株価指数・金利・エネルギー・貴金属の主要先物は現在、日曜 18 時～金曜 17 時（毎日 17～18 時に 1 時間停止）のほぼ 23 時間体制。

【参考】時差でみる 2026 年 12 月以降の姿

米国株の新設夜間セッション（米東部 21 時～翌 4 時）は、日本時間では冬時間でおおよそ 11 時～18 時、夏時間で 10 時～17 時に当たる。すなわち米国の「夜間拡大」は、日本からみれば東証の立会時間（9 時～15 時 30 分）と正面から重なる「日中の拡大」である。一方、日本のデリバティブは翌朝 6 時まで動くが、現物株は日中 5 時間 30 分にとどまり、日米の現物市場の開場時間差は 2026 年 12 月を境に一気に拡大する見通しだ。

編集メモ（本文外）

- ・表 1 は J P X 公式「売買立会時間の変遷」に準拠（一次資料確認済み）。1989 年の土曜廃止も同資料の半休日・休業日の変遷に準拠
- ・表 2 の大証イブニング中間延長（～20 時、～23 時 30 分）の年月日のみ未確認。掲載前に大取沿革で照合のこと。2016 年・2021 年の延長日は大取公表資料で確認済み
- ・表 3 の 1871～1985 年は N Y S E アーカイブ由来の二次資料（複数一致）。1968 年の事務処理危機による水曜休場・短縮営業の時期は割愛した
- ・表 4 の G l o b e x 稼働（1992 年 6 月）・A C C E S S（1993 年）は二次資料ベース。C M E 現行の「日曜 18 時～金曜 17 時」は商品により細部が異なるため、個別商品を掲載する場合は仕様書で確認
- ・2026 年 12 月 6 日は目標日（各取引所の最終手続きが前提）。校了時に進捗を要確認